

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン時津(1ユニットめ)		
所在地	西彼杵郡時津町野田郷757-1		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果確定日	令和2年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員互いに協力しあえ洗濯物干し、取り込み、たたみ、調理補助等の方が自発的に日課とされている入居者様も居られ、一方的に支援をするのではなく、互いに協力できる関係を作るよう努めています。また入居者様の家族との交流にも力を入れ(ピクニック・食事会・催し物等企画)行い参加して頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JiqvosyCd=4271101869-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年3月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年に1回、全ユニットで理念についての話し合いを行い、見直しや更新することで適切なケアの提供に努めている。地域で開催されている運動会に職員が入居者様と一緒に参加するなど地域との交流を深めており、また時津町とも認知症講座に職員が講師として出席するなどして協力関係の構築ができています。入居者様に対しては日常的なケアの他、定期的に意向を聞き取って外出希望の拳がった相撲巡業の観戦に行くなど、入居者様の気持ちに寄り添う支援を行っている。また受診支援や往診など、同法人内の病院と連携の取れた医療支援体制を整えることができている。入居者様の緊急時にも対応できるようになっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員全体で話し合い作成しており、常に意識して業務にあたるよう促している。毎日のミーティング時に理念の読み上げを行い意識を共有しています。	年に1回、3ユニット合同で話し合いを行い、理念の見直しを行っている。また、毎日のミーティングの最後に理念の唱和を行うことで理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(花壇の手入れ)や(運動会)等に参加し入居者様と地域の繋がりを継続できるように努めています。	数年前から地域の花壇の手入れにホーム長とケアマネージャーが参加している。地域運動会には職員だけでなく入居者様も選手として参加し、交流を深めることができている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と協力して複数の世代を対象とした認知症サポーター講習を行い、地域で生活されている認知症の方を地域ぐるみでサポート出来るよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告に加えて入居者様の活動の報告、行事の時の様子などを報告しています。包括職員や民生員の方からも意見を頂き、サービスの向上を目指しています。	地域包括支援センターと高齢者すこやか支援課の職員、民生委員、自治会長も出席している。会議の内容はミーティングの時に報告を行い、職員内で情報を共有してサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の報告や運営推進会議への参加声掛けの他に、地域で開催する認知症講座の時に非常に協力的にサポートして下さっています。	時津町のなづみ野会で行われる認知症講座に職員が講師として参加するなど、積極的に市町村との協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、身体拘束の意味を理解し、直接的な拘束のみではなく言葉での拘束・間接的な拘束も決して行わないよう全員が意識の統一しています。	半年に1回、全職員で身体拘束に関する勉強会を行っている。また身体拘束の委員会を組織しており、直接的な拘束だけでなくスピーチロックなどの間接的な拘束についても注意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待防止委員会を設置行い月に一度会議行い、年二回全職員対象の勉強会おこない学ぶ機会を設けている、また日頃から虐待と疑われるような言動に注意しながら業務を行うように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は特に学ぶ機会を設けていません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には後に理解の相違が無いよう努め、利用者様及びご家族様の不安や疑問点も解決出来るように話し合いを行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や外部評価でのアンケート等で意見を頂けるようにしています。それ以外でも、直接職員にお話して下さった意見は迅速に対応するよう努めています。	ホームの入り口に意見箱を設置してご家族からの意見の収集を行っている。その他にも入居者様やご家族から聞き取りを行い、希望のあった相撲巡業に連れていくなど、可能な限り意見反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務的な部分に関しては、定期的に会議の場を設け 職員が意見や提案を言える状況を提供していますが、運営的な意見を聞く場というには特に定めていません。	毎日のミーティングと月に1回のユニット会議にて業務に関する聞き取りを行うようにしている。運営に関する会議等は設けてないが、日常的に職員からの意見は受け付けており、必要物品等があればホーム長へ要望を出すことができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回能力開発面談を行い、職員が管理者・代表と個別で話す機会を設けています。そこで職員からの意見や目標、どのように業務に取り組んでいきたいかを確認し、やりがいをもち勤務できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加する際の勤務調整等サポート行っています。法人内でも毎月勉強会を開催し様々な職種の方を講師に迎えており、これにも積極的に参加できるように言葉かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、同業者と交流する機会を作り、ネットワーク作りを進めサービスの向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時には、本人またはご家族から、しっかりと話を聞き、要望にはできる限り応えられるよう準備し、安心して入居できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との信頼関係を築くために、迅速かつ丁寧な対応、情報交換を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の状態をよく見たうえで、スタッフと話をしながら、ご家族にサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす家族として、日々全職員は情報の共有を図り、喜怒哀楽を共にし、支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の暮らしの出来事を、ご家族と共に共有しながら、互いに支え合える事が出来る様に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある環境や行きたい場所を把握して、積極的に外出支援をしている。	お祭りや敬老会等の行事参加の他、入居者様から馴染みの場所への外出希望があればご家族に報告し、対応をお願いするようにしている。また手紙等が届いた際に職員が返信の手伝いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の個々の思いを把握し大切に、状況に応じた対応に努めている。問題が起きた時には上司に相談しフロアでも話し合いを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他所へ移動の際のご相談に対応したり、退所後も必要に応じて相談や支援等行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望に添える様に努め、関わりの中で気づきを得ながら、ご家族に相談し検討する。	入居時にご家族や本人にできる限り要望を聞き、最初は3か月ごとに、安定されたら6か月ごとにケアプランの見直しを行って反映させている。変更があった場合はご家族にお知らせしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から忘れていた記憶・大事な思い出・生活歴が把握出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々のアセスメント情報に基づき、個々の有する能力を把握してケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	得意な事、好んでされる事を暮らしの中から得て介護計画に反映している。	半年に1度くらいの頻度で職員全体の会議を行い、アセスメントシートを作成して介護計画を作成している。状態の変化があったときは、その都度計画を見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画・実施・振り返り・再評価を繰り返す中で全職員は情報を共有し、気づきから即実践した事を介護計画の反映に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に添える様に家族様と相談しながら、個々に合わせたサービスの提供が出来る様にしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームで行うイベントなどの際には地域の方をお招きしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に協力会社の説明もさせていただき、納得していただいたうえでの入居となっている。また、別のかかりつけ医を希望された場合においても臨機応変に対応させていただいている。	同法人の病院から月2回、ユニットごとに担当医・担当看護師が往診を行っている。緊急の場合は夜間でも受診できるよう送迎がある。歯科の往診もあり。他の医療機関を希望される場合は、ご家族対応としている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師の巡回に加え、入居者様の状態の変化を逐一、協力病院に報告・相談し、迅速かつ適切な対応ができるよう指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院には常に連絡を取り合っており、入院中の入居者様の状態確認や退院時期の相談等おこなっている。 また、それ以外の病院に入院される場合であっても、病状を説明できる看護師が付き添い、情報交換をスムーズに行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針については入居の際の書類にも明記し、主治医・ご家族・職員を交えての病状説明等を行い、どのように進めていくのかを本人様とご家族の意向を最大限汲みながら検討を行うようにしている。	重度化・看取りについては入居時にご家族に説明し、本人や家族が望む生活ができるよう検討している。今まで実際に看取りを行ったことはないが、職員と同法人の医師・看護師も対応する体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命の講習を受けて、非常の際に備えています。AEDも常に使用できる位置に設置している。 協力病院があるので直ちに指示を仰いだり、迅速に搬送することが可能です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防署立ち合いの訓練を行い、非常時の対応についてのスキルを身に着けさせている。 他にも、スプリンクラー・通報設備の点検や、施設周辺に燃えやすいものを置かない等気掛けている。	各階に火災発生時の対応マニュアルを常備して役割分担を明確にし、年2回職員全員が夜間を想定した訓練を行っている。災害時の備蓄も必要量が確保されている。	地区のハザードマップに土砂災害のおそれありとされている地区にあるため、水害や地震など自然災害への対応マニュアル整備・訓練を実施されるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の性格やその時の精神状態、生活歴から、言葉かけや対応を注意して行っている。	業務中にあった発言で注意が必要なものについては、ヒヤリ・ハットに記録し、夕方の職員ミーティングで共有している。法人全体で月に1回実施している接遇マナー研修に出席可能な職員が出席し、意識の向上を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃のコミュニケーションの中で、本人の希望を伝えられる様な場面を作り、その人らしく暮らせる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る事と出来ない事を見極めて出来るだけ本人の希望に添う様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに関しては、起床時に注意を払うように支援している。毎月一回、希望者には訪問ヘアカットを利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事の準備を利用者様と職員が一緒に行い、利用者様に昔の事を思い出してもらいながら準備や片付けを行ってもらっている。	栄養士と相談して行事の時は特別食にしている。他、要望があれば冬季に生ものをだしたりお菓子作りをすることもある。入居者様が自発的に洗い物を手伝ったりすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人がご自分で食事ができるように形態を変え提供し、食器やスプーンなども工夫して利用者様が食べれるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様より歯の異常の訴えがあった場合や、毎食後の歯磨き時に口腔状態を確認し異常があれば歯科往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを調べ、利用者様に合った誘導や声掛けを行い、気持ち良く排泄出来る様に支援している。	各個室にトイレが設置されて職員がタイミングを把握しづらいため、排泄パターン表を作成して事前に声掛け、誘導をしている。夜間おむつ対応の入居者も寝たままの交換をできるだけ減らせるようトイレへ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策では日中の水分補給、乳製品、腹圧などを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎週三回入浴介助を行っています。入浴の順番なども利用者様の性格などを考慮し言葉かけを行い気持ちよく入浴していただいている。機械浴を導入したことによりサービス向上を行えるようになった。	入居者様の希望や介護度によって時間帯を分けて入浴をしている。拒否される場合は対応する職員を変えるなどの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はご本人の様子から意向を捉え、眠りたい時にはリビングのソファ-居室ベッドで休んでいただく。夜間は消灯までフロアで過ごしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方ファイルにて内容を把握し、服薬時にも再確認を行っている。バイタルの異常時や日頃と様子が違う場合は病院に相談を行い、必要時には受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みに合わせた計画を立てたり、その日の状態・表情から楽しみとなる事を共に探している。また、食後の片づけ(テーブル拭きや食器の片づけ)などは職員と共に行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節を感じて頂けるような外出行事を企画し行っている。個別に外出計画書を作成し行っている。	近隣の公園への散歩や日常の買い物は希望があれば職員が対応している。特に希望があった相撲巡業観戦も実施した。法人合同のピクニックや他施設とのバーベキューも実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がご家族様管理となっておりますが、本人様で持つ事を希望される場合には、少額で対応させていただいている。金銭を所持されている方はご希望に応じて外出時にお買いものを支援させていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて事務所の電話を使用させていただき、ご家族様とやりとりをしていただいている。正月には年賀状を書き、ご家族様へ近況報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日付が解かる様に職員が作成したカレンダーを飾り工夫している。季節に応じた飾りつけや、また危険とならないような工夫も行っている。	毎日掃除を行い清潔に保つ他、動線が確保できるよう室内を整備している。イベント時には入居者とのレクリエーションで作成した飾りつけをして季節感をだしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではソファーと大型テレビ配置し、それぞれ好みの場所で過ごせるようにしています。 食事の席についても固定ではなく考慮して配置させていただいています。金魚の水槽を置き、落ち着いた場所の提供をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品・写真などを持参して頂き、住み慣れた空間を提供出来る様に工夫している	仏壇や冷蔵庫など危険物や火器以外は使い慣れたものを持ち込んでもらい、親しみのある部屋になるようにしている。窓の鍵は夜間のみ二重にして安全面にも配慮している。各個室にトイレ・洗面所が設置されているため、換気や消臭にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行できる方、見守りの中歩行できる方、一部介助の方、車いすの方、それぞれの方に合わせた環境作りを工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン時津 (2ユニットめ)		
所在地	西彼杵郡時津町野田郷757-1		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果確定日	令和2年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員互いに協力しあえ洗濯物干し、取り込み、たたみ、調理補助等の方が自発的に日課とされている入居者様も居られ、一方的に支援をするのではなく、互いに協力できる関係を作るよう努めています。また入居者様の家族との交流にも力を入れ(ピクニック・食事会・催し物等企画)行い参加して頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=4271101869-00&ServiceCd=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年3月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員全体で話し合い作成しており、常に意識して業務にあたるよう促している。毎日のミーティング時に理念の読み上げを行い意識を共有しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(花壇の手入れ)や(運動会)等に参加し入居者様と地域の繋がりを継続できるように努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と協力して複数の世代を対象とした認知症サポーター講習を行い、地域で生活されている認知症の方を地域ぐるみでサポート出来るよう努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告に加えて入居者様の活動の報告、行事の時の様子などを報告しています。 包括職員や民生員の方からも意見を頂き、サービスの向上を目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	空室状況の報告や運営推進会議への参加声掛けの他に、地域で開催する認知症講座の時にも非常に協力的にサポートして下さっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い、身体拘束の意味を理解し、直接的な拘束のみではなく言葉での拘束・間接的な拘束も決して行わないよう全員が意識の統一しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待防止委員会を設置行い月に一度会議を行い、年二回全職員対象の勉強会おこない学ぶ機会を設けている、また日頃から虐待と疑われるような言動に注意しながら業務を行うように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は特に学ぶ機会を設けていません		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には後に理解の相違が無いよう努め、利用者様及びご家族様の不安や疑問点も解決出来るように話し合いを行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や外部評価でのアンケート等で意見を頂けるようにしています。それ以外でも、直接職員にお話して下さった意見は迅速に対応するよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務的な部分に関しては、定期的に会議の場を設け 職員が意見や提案を言える状況を提供していますが、運営的な意見を聞く場というには特に定めていません。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回能力開発面談を行い、職員が管理者・代表と個別で話す機会を設けています。そこで職員からの意見や目標、どのように業務に取り組んで行きたいかを確認し、やりがいをもち勤務できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加する際の勤務調整等サポート行っています。法人内でも毎月勉強会を開催し様々な職種の方を講師に迎えており、これにも積極的に参加できるように言葉かけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、同業者と交流する機会を作り、ネットワーク作りを進めサービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者・ケアマネジャーが入居前に本人様・家族様と面談を行い、要望に沿った生活を送る事が出来るよう支援しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様と家族様の要望は可能な範囲取り入れるように努めています。 また、ご家族が面会に来られた際に積極的にコミュニケーションを取ることで信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様の残存能力の活用とご家族の経済的な負担等も考慮しつつサービスの提案を行うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の日々のコンディションや気分的なものも考慮しつつ洗濯や掃除・調理のお手伝いといった事を協力して行い共に支えあいの出来る関係作りに努めています。。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告等を行い、また、支援において変更を検討したい場合など、こちらから家族様に相談を行い協力を仰ぐようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙といったものも、本人様の希望に沿って職員がサポートを行い、馴染みの関係の継続を支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理のない言葉掛けと定期的なレクリエーションで入居者様同士がコミュニケーションを取りやすい雰囲気作りを気掛けています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他所へ移動の際のご相談に対応したり、退所後も必要に応じて相談や支援等行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向を最優先に考え、可能な限り対応出来るよう努めています。 意思表示困難な方の場合にはケアマネジャーと複数の職員で検討し、ご本人様の希望に沿えるように取り組んでいます。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書面のみでなく、本人様・ご家族様とのお話の中で生活歴や好き嫌い等を引き出し、それを職員間で把握することで支援に役立てるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の残存能力を理解し、それを活かせる様な支援を行いつつ、日々の体調等にも気を配り、無理なく生活して頂ける様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	複数の職種の方とケアカンファレンスを行い、多方面からの意見を取り上げた上で介護計画を作成するようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプラン把握のための読み込みと、プランに沿った記録を行うように指導しています。また、状態の変化等については日々のミーティングにて報告を行い、全ユニットで周知出来るように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、またそのご家族様のご希望には出来る範囲で柔軟に対応していきたいと考えていますが、職員数の問題などもあり、必ずしも対応できるというわけではありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の敬老会への参加や老人クラブとの交流等行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に協力病院の説明もさせて頂き、納得して頂いたうえで入居となっています。また、別のかかりつけ医を希望された場合においても臨機応変に対応させて頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護師の巡回に加え、入居者様の状態の変化を逐一、協力病院に報告・相談し迅速かつ適切な対応が出来るよう指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは常に連絡を取り合っており、入院中の入居者様の状態確認や退院時期の相談等行っています。また、それ以外の病院に入院される場合であっても、病状を説明出来る看護師が付き添い情報交換をスムーズに行えるように努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針については入居の際の書類にも明記し、主治医・ご家族・職員を交えての病状説明等を行い、どのように進めていくのかを本人様とご家族様の意向を最大限くみながら検討を行うようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を受けて、非常の際に備えています。また、協力病院があるので直ちに指示を仰いだり、迅速に搬送する事が可能です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防署立ち合いの訓練を行い、非常の対応についてのスキルを身に着けさせています。他にも、スプリンクラー・通報設備の点検や、施設周辺に燃えやすいものを置かない等気掛けています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格に配慮した言葉掛けを行うように指導しています。施設内で行う勉強会でプライバシーの保護について学び 職員同士で注意し合っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が思いを表しやすいような言葉かけ・問いかけを行うようにしています。 入居者様お一人では危険な場合でも職員付き添いを行い極力本人様の意思を尊重したケアをさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設で決めた時間に沿っての対応をお願いする場面もありますが、入居者様の気分やご本人様の中での決め事を優先に考え、出来る限りの対応を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でその日着る洋服を選んで頂いたり、毎朝の整容・整髪のお手伝い等支援させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の残存能力を見極め、食事前後の準備や野菜の皮むき等、無理のない範囲でお手伝いして頂いています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	こまめな水分補給が出来るよう、言葉かけ・介助を行っています。 食事に関しても状態を見つつ栄養士や看護師と相談して、ご本人様が摂取しやすい食事形態へと変更しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。仕上げが必要な方には、一部介助、及び全介助にて仕上げを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	早いうちに排泄パターンを把握するよう努め、タイミングを合わせた言葉かけ・誘導を行い、失禁を減らして自立した排泄が出来るように支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中をベットの上のみで過ごされないよう、体調や気分に合わせて運動の言葉かけを行っています。また、協力病院とこまめに連絡を取りつつ、下剤の調整も行っていきます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日に入浴されなかった方には別日に他ユニットで対応させて頂いています。また、これまで入浴困難だった方も機械浴導入行い対応させて頂いています。時間に関しても、可能な範囲で本人様の希望に合わせてられるように努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう気掛けつつ、体調に合わせて日中に休息して頂く場合もあります。居室の空調や照明等もゆっくり休んで頂ける様に職員が調整行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤に変更や追加があった場合には必ず処方箋に目を通して、本人様の現在の症状と必要なお薬の把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	可能な方には日常生活のお手伝いをお願いしたり、役割を持つ張り合いを感じて頂ける様努めています。また、レクリエーション等でも一人一人の好みに合わせた内容を取り入れるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や本人様の体調にもよりますが、近隣への散歩等、気分転換のための外出を行っています。また、年間で予定を決め、遠出の外出も数回行っていきます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方がご家族様管理となっておりますが、本人様で持つことを希望される場合には、少額で対応させて頂いています。金銭を所持されている方は希望に応じて外出の機会を作りお買物を支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に応じて事務所の電話を使用して頂き、ご家族様とやりとりをしていただいています。お手紙の代筆や投函も支援させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	強すぎない光源を使用して温かみのある空間作りを意識しています。 フロアは車椅子が十分すれ違える空間があり、空調も職員本位では無い調整を気掛けています。また、季節によっては飾り付け等も入居者様と一緒にしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではソファを複数設置し、それぞれ好みの場所で過ごせるようにしています。また、食事の際の席についても気の合う、合わないを十分考慮して配置させて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	極力持ち込みの制限を無くし、これまで生活されていた空間に近い状態で生活して頂ける様に配慮しています。 本人様の危険行為や防火防災の観点から、持ち込みをお断りさせていただく場合もあります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物干し、たたみや調理補助等の家事は、出来る方には積極的に参加して頂けるように言葉かけを行っています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271101869		
法人名	医療法人 啓正会		
事業所名	グループホーム モン・サン時津(3ユニットめ)		
所在地	西彼杵郡時津町野田郷757-1		
自己評価作成日	令和2年2月10日	評価結果確定日	令和2年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様と職員互いに協力しあえ洗濯物干し、取り込み、たみ、調理補助等の方が自発的に日課とされている入居者様も居られ、一方的に支援をするのではなく、互いに協力できる関係を作るよう努めています。また入居者様の家族との交流にも力を入れ(ピクニック・食事会・催し物等企画)行い参加して頂いている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosvoCd=4271101869-00&ServiceCd=320
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	令和2年3月19日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、全職員で理念を共有し、明るく楽しい、地域に密着した雰囲気づくりに努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	時津町や野田郷の自治会に参加し、グループホームと地域との交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と協力して複数の世代を対象とした認知症サポーター講習を行い、地域で生活されている認知症の方を地域ぐるみでサポート出来るよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業報告に加えて入居者様の活動の報告、行事の時の様子などを報告しています。 包括職員や民生員の方からも意見を頂き、サービスの向上を目指しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空室状況の報告や運営推進会議への参加声掛けの他に、地域で開催する認知症講座の時にも非常に協力的にサポートして下さっています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して全職員が正しい理解を持ち、それを行わないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされないように、言動や行動に対して全職員で注意しながら取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は特に学ぶ機会を設けていません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には後に理解の相違が無いよう努め、利用者様及びご家族様の不安や疑問点も解決出来るように話し合いを行います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や外部評価でのアンケート等で意見を頂けるようにしています。それ以外でも、直接職員にお話して下さった意見は迅速に対応するよう努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務的な部分に関しては、定期的に会議の場を設け 職員が意見や提案を言える状況を提供していますが、運営的な意見を聞く場というには特に定めていません。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に3回能力開発面談を行い、職員が管理者・代表と個別で話す機会を設けています。そこで職員からの意見や目標、どのように業務に取り組んでいきたいかを確認し、やりがいをもち勤務できるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修に参加する際の勤務調整等サポート行っています。法人内でも毎月勉強会を開催し様々な職種の方を講師に迎えており、これにも積極的に参加できるように言葉かけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、同業者と交流する機会を作り、ネットワーク作りを進めサービスの向上に取り組んでいます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の想いを聞く機会を作り、それを全職員で情報の共有をして今後のサービスに活かせるよう努力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様、ご家族様が困っている事、不安な事があれば傾聴し、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とする支援を見極めて、できる限り本人様やご家族様の希望に添えるような対応を行うよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様を介護される一方だけの立場にならないように、共に暮らす者同士の関係を築ける様努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は本人とご家族の絆を大切にして本人とともにその絆を支えていける関係を目指しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしていた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで大切にしていた馴染みの人や場所が本人と関係が途切れないように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人一人が孤立しないように支え合える関係を築けるように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もこれまでの関係を大切にしながら必要に応じて本人と家族が相談しやすい環境づくりに心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望、意向を把握し、困難な場合は本人の立場に立って考え、検討しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方や生活歴・環境やサービス利用の経過などを把握し、入居者様の今後の生活に活かせるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方を把握するために、日常的な様子観察や個人記録、申し送りなどから情報を得るように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様により良い生活を送っていただくために、他職種との連携を図り、ケアカンファレンスを実施して介護計画を作成するようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の様子を個人記録へ残し、職員間で情報を共有して実践や介護計画に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様とご家族のニーズに最大限対応できるように努めていますが、職員数の問題もあり、必ずしもすべてを対応できない場合もあります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	常に安全でその人らしい暮らしができるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	異常時や緊急時などは緊急搬送も対応し、適切な医療を受けられるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護師が来て介護職との情報共有を図り、入居者様の健康面でのサポートを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様の入院中の様子や退院時期などの相談を常に連絡が取れるよう、病院との関係を円滑にすることに気掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医やご家族を交えての病状説明を行い、終末期に向けた方針や重要事項の説明で今後の対応を検討するようにしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	非常時に備えて定期的に救命救急の講習を受けたり協力医療機関に迅速に指示を仰いで搬送することが可能です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	定期的に消防立会いの避難訓練を行い、非常時に対応できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の誇りやプライバシーを侵害しない声掛けや対応を心掛けています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を表しやすい言葉かけに気を付け、ご自身で決める事が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理をせずに個人のペースに合わせて過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で着る服を選んだり、定期的に美容師に訪問してもらい希望の髪型に整えていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの好みを把握するように努め、調理に取り組んでいます。 また、片づけは極力利用者様と一緒にするようにしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量を記録に残し、入居者様の状態把握に努め、食事や水分がきちんと取れるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力に応じた口腔ケアを支援し、歯科医の指導を受けながら口腔内の清潔に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の排泄パターンを把握して、それに応じた声掛けや誘導で、気持ちよく排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のための水分補給や軽い運動など行うよう気掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望やタイミングに合わせて気持ち良く入浴していただけるよう努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時の状況に応じた休息を支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は職員が管理して、入居者様の状態に応じて主治医に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張りのある生活が送れるよう、生活歴や残存機能に注目して作業やレクリエーションを提供しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	体調などに考慮しつつ買い物や散歩に出かけています。 年間行事の中にも遠出の外出を取り入れています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある場合にはご家族様と相談しつつ支援を行います。現在はほぼご家族様が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には事務所から電話をかけたり、手紙のやり取りなども支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日職員が掃除を行い、気持ちよく過ごせるよう配慮しています。 窓から見える景色などでも季節感を楽しまれています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファで座ってテレビを見たり、みんなで集まってレクリエーションをしたり、居室でお昼寝したりとご自由に過ごせる空間があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	過去に使われていたものを持ちこんだり、好みの物を準備して居心地良く過ごせるよう工夫しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は安全かつ移動しやすいつくりになっており、入居者様ができるだけ自立した生活を送れるようになっています。		